

令和7年産米の県生産数量目標（目安）の設定について

経緯等

- 農業者等の主体的な判断により需要に応じた生産・販売を進めるため、国は平成30年以降、米の生産数量目標の配分を廃止し、**目標（目安）の設定は各都道府県の判断によるものとした**
- 本県では、引き続き、需給バランスのとれた生産を行っていくため、**県の目標を設定し、市町村ごとの生産面積の目安を提示**している（本県を含む43道府県が目標（目安）を設定）

平成30年産米以降の県生産数量目標

設定の考え方

国から示される全国の需要見通しを基に、県の生産数量目標を算定

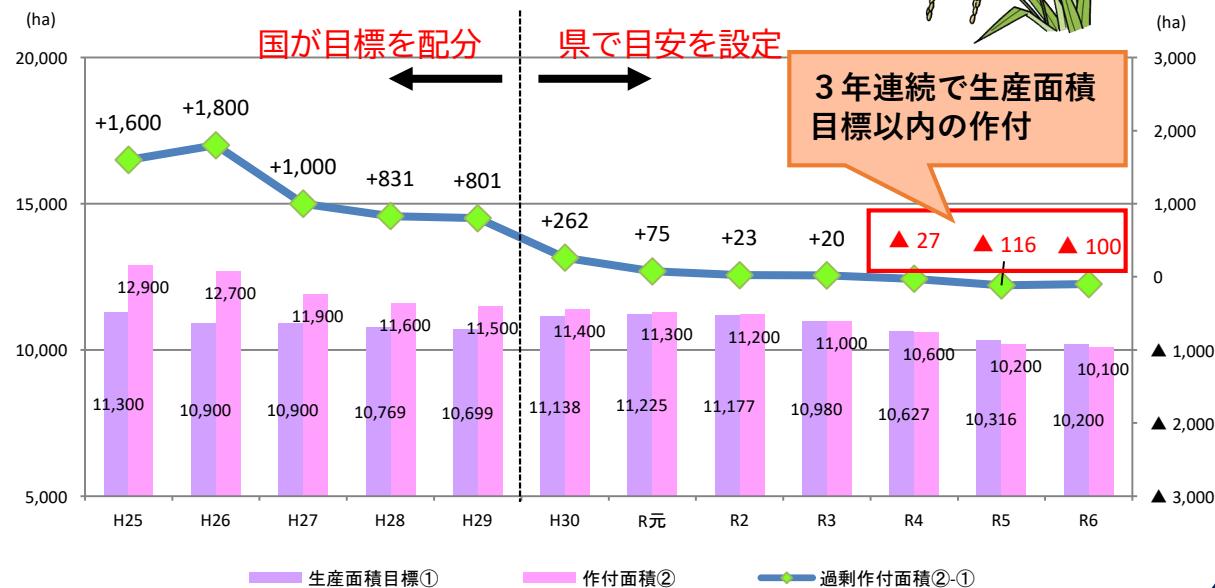
高知県における
生産数量目標

$$= \text{全国の需要見通し} \times \text{高知県の需要実績の全国シェア} \times \text{高知県の人口減少率}$$

この考え方で算定すると・・・

	令和6年産	令和7年産	増減
生産数量目標	46,300 t	43,806 t	▲2,494 t
面積換算	10,200 ha	9,607 ha	▲593 ha
作付実績	10,100 ha	約600haの大幅減	

県内の主食用米の作付状況



今夏の全国的な米の不足感や価格の高止まりといった状況を踏まえ
令和7年産米の県生産数量目標（目安）の設定の考え方を見直し

全国の主食用米の需給見通し

年産	項目	数量
5	民間在庫量 (R6.6月末)	A 153 万 t
6	生産量	B 683 万 t
	需要量	C 674 万 t
	民間在庫量 (R7.6月末)	D=A+B-C 162 万 t
7	生産量	E 683 万 t
	需要量	F 663 万 t
	民間在庫量 (R8.6月末)	G=D+E-F 182 万 t

平成11年以降で最低水準

国は令和7年産の生産量(E)を
令和6年産生産量(B)と同水準
の**683万t**に設定

令和6年産と令和7年産で段階的に
適正在庫量 (180~200万t) を確保

資料 農林水産省 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針（令和6年10月30日公表）

令和7年産米の県生産数量目標（案）

全国の生産量見通しの考え方を踏まえ、
本県における**令和7年産米の生産数量目標**を
令和6年産作付実績と同水準の**10,100ha**とする



四万十市の水田



梶原町の棚田